

編集後記

特集として「関連職種教育」を選んだ理由は、リハビリテーション医療の中で重要な意味を持つ「関連職種」についてかなり幅広い見解が持たれており、学校卒業者についても大変異なった機能が要求されていることがわかったからである。

PTにしてもOTにしても、基礎的な医学知識は医師のそれと同じものを要求されるのは、時間的な制約もあり無理というものである。PTやOTが充分に腕が伸ばせるのは、適切な医師の指示に加え、医療チームの一員として仕事をする以上は、そこに行きとどいた看護の存在が是非必要なことであり、それらの点を認識せねばならない。

さて横浜市の大川氏・他はOTの教育について興味あるアンケート結果を示された。多くの学校で規定のカリキュラム以上の授業が行われている現状ではやはりOTの教育内容の検討は必要であろう。その内容でも暗示されたように教員は臨床の場を放れてはならない。少なくともPTやOTの先生はまずよいPTやOTでなくてはならず、そのためには教育と並行して患者の治療を続けるべきであろう。

初山氏の「義肢装具士の教育」は日本のこの方面の歴史と現況にわたるもので、言うな

れば力作である。日本の義肢装具士の家系譜と言うべきものが示され、私がそれまで持っていたいくつかの疑問もこれを見て解決されてしまった。将来も引用されることであろう。

宰田氏の「福祉ヘルパーの職業訓練」は私にはまったく新しい事で職業訓練校にこのようなコースがある事は全く知らず恥しい思いをした。その教育内容も大変興味を持てたがヘルパーという語は何となく漸新で感じがよい。今後の需要も増す事と思われる。

MSWについては多くの方が多くの意見を御持ちの事であろう。特にMについての知識不足は時によると重大な結果ももたらす事が考えられ、斉場氏の論文は今後の教育への1つの指示として重要な意味を持つものとなるだろう。

田島氏は巻頭言で補装具交付時のジレンマを例に引き「五重の塔も下から組む」の句で結ばれた。もっと紙数を増して書いていただければよかったのにと惜まれる。

分子生物学者は世界の最先端の研究を自負されるだろう。それに対しリハビリテーション医療に携わるものはもっとも人間らしい人間の医療に取り組んでいると自負したい。

(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加 倉 井 周 一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秋 彦
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)

次号予告 (第12巻 第9号)

特 集 脳卒中片麻痺のリハビリテーション

脳卒中片麻痺患者と Emission CT……鹿教湯病院神経内科 牧 下 英 夫・他
脳卒中片麻痺患者の機能と CT……産業医大 今 村 義 典・他
片麻痺患者の体力……筑波大 間 嶋 満
片麻痺患者の非言語能力……神奈川七沢病院言語科 竹 内 愛 子・他

巻 頭 言 整形外科医とリハビリテーション……岡大・整形外科 田 辺 剛 造
研究と報告 片麻痺歩行のエネルギー消費と歩行の能率の評価について……中伊豆リハセンター 窪 田 俊 夫・他

紹 介 重度脳性麻痺症例の書字介助機器：特殊ワードプロセッサの開発について……愛媛大・整形外科 首 藤 貴・他

講 座 合併症の障害学3：脊髄損傷における合併症(その2) 自律神経障害……産業医大 浅 山 滉
言語障害の評価3：難聴児の言語受容と言語発達の評価……国立身障リハセンター 中 村 公 枝

一 頁 講 座 人工関節9：足関節……国立東二病院整形外科 加 藤 哲 也

印 象 記 People-to-People International Japanese Rehabilitation Medicine Delegation に参加して (2)……自治医大 大 井 淑 雄
第15回リハビリテーション世界会議……帝京大 岩 倉 博 光